

# シンポジウム開催の背景

## ◆カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション

文部科学省・経済産業省・環境省の呼びかけのもと、カーボンニュートラルに向けた積極的な取り組みを行っている大学等による情報共有や発信の場として、2021年7月に開始しました。現在、全国の200を超える大学等が参画しています。現在、次期の在り方について、議論しています。



- ・ 今後、より一層の共創・協働が必要
- ・ 特に、「人材育成」は、重要な共通課題

## ◆総合地球環境学研究所グリーンナレッジセンター（GKC）

「大学共同利用機関」「超学際研究の拠点」としての特長や歴史・実績を活かし、多様なステークホルダー、地域、テーマのハブとなって「つながり」をつくり、「人づくり」を通じて、人類の共通課題である環境問題の解決、持続可能な社会の構築に貢献することを目指し、2025年4月に設置されました。



未来を変える選択 ～グリーン人材を社会で共創する～

# 「グリーン人材」とは？

持続可能な社会の構築に資する人

グリーン社会変革を推進する人

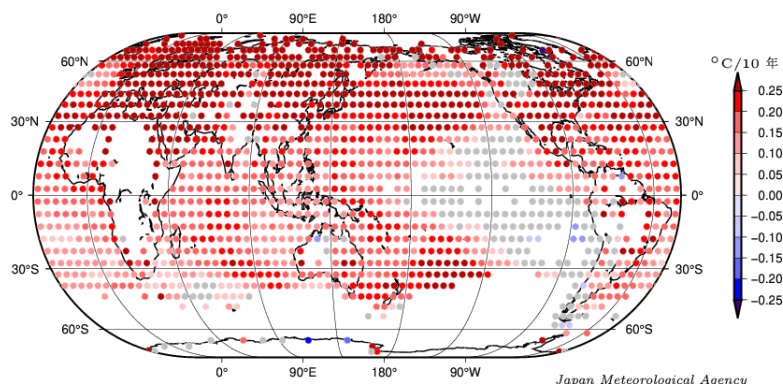
# そもそも・・・背景・課題 「グリーン社会変革」の必要性

## 深刻化する地球環境問題

世界的な脅威 → 求められる方向性

◆ 地球沸騰(災害激甚化など) → カーボンニュートラル(CN)

年平均気温長期変化傾向 1979-2024 年

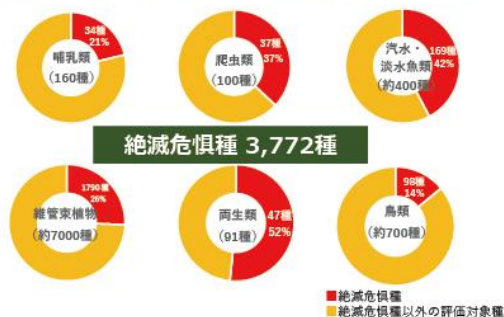


◆ 廃棄物増加・資源枯渇  
→ サークュラーエコノミー  
(CE)



◆ 生物多様性の危機 → ネイチャーポジティブ(NP)

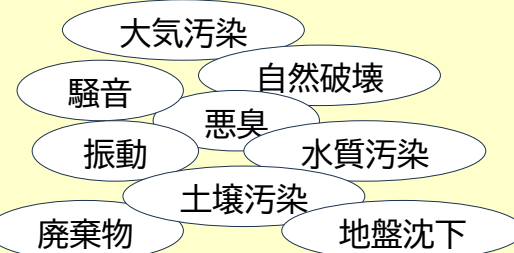
環境省レッドリスト2020及び海洋生物レッドリストで評価した  
日本の野生動植物のうちの絶滅危惧種の割合 ※グラフは一部の分類群



## これまでの国家・国際社会の対策

科学技術を用い、それらを機能させるための政策導入とともに解決を目指す

### 地域の公害問題など

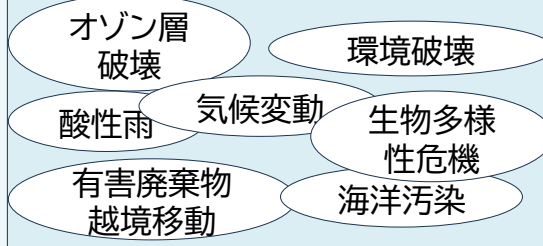


▲ 原因・メカニズムが解明でき、普遍的な技術により解決が**一定程度、可能**



ごみであふれる都内の川(1970年)

### 地球環境問題



原因・メカニズムの解明も困難で、技術依存型では対処できない！

技術に依存してきたこれまでの思考(志向)から脱却し、根本的な地球環境問題の解決により、持続可能な人間社会の構築と、人と自然との共生を目指す挑戦が必要

→ 「グリーン社会変革」と呼ぶ

# 「グリーン社会変革」とは？

原因・メカニズムの解明もままならない地球環境問題に、どのように対処するのか？

## 適応策

起こりつつある環境の変化(悪影響)に対して、私たちの暮らしや営みを、適応させていく

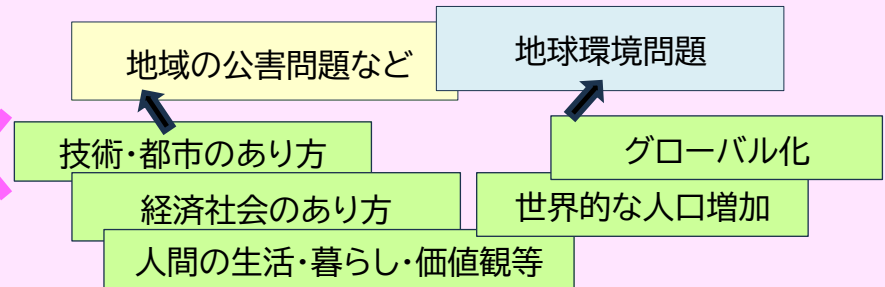


出典:NIES

情報技術の発展により、現状や予測に関する分析の確度は高まっており、それらも駆使し、厳しくなる環境の中で、できるだけ環境負荷を減らしながら生存していくための術や仕組みを整えていく

## 予防原則に則った緩和策

私たちの暮らしや営みを改革する



地球環境問題について、個別の事象について、原因やメカニズムと、それに基づく解決策を明示することは難しい。しかし、明らかなことは、私たちの日々の暮らしや営みが、無意識か否かにかかわらず、環境負荷となり、複雑に絡み合い、環境破壊を引き起こしているということである

- グリーン社会変革とは、技術に重度に依存せず、根底にある私たちの意識を変えるところから始め、そこから暮らしや営みを換え、抜本的な課題解決につなげるアプローチ
- これまで国家や国際社会が志向してきたものとは異なる視点を持つが、同時にグローバルな環境問題の解決にも貢献することが期待できる

実際に、グリーン社会変革は、世界各地で萌芽し、全て地域レベルで起こっている

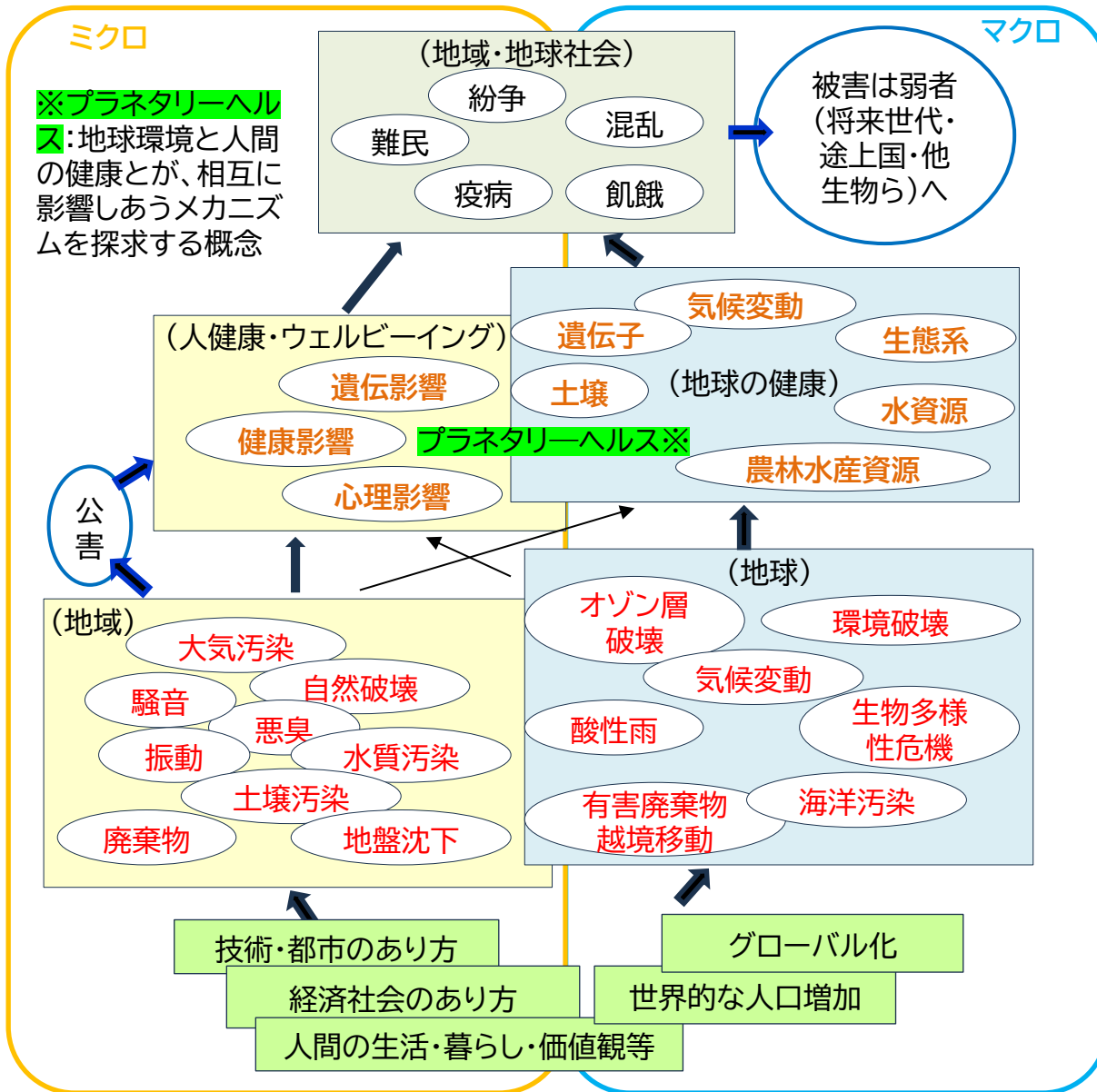
- 人の暮らしや営みを、様々な形で持続たらしめる「暗黙知」を手がかりに、自分たちの在り方を、根底から問い直し、自分たちの手で課題解決をめざそうと動いている
- 過去には、地域が点であったものが、情報技術も活用することにより、軽々と越境し、集合知となり、コレクティブインパクト(※)が生まれるようになってきている

(※)コレクティブインパクト 社会課題の解決のために、異なる組織やセクターが共通の目標を設定し、それぞれの強みを活かして協力し合うことで、より大きな成果を達成するアプローチ

# 「グリーン人材」とは…

自分たちの在り方を、根底から問い直し、  
自分たちの手で  
課題解決をめざそうと動いている人

# 参考：地域・地球環境問題と影響の構造



一因・遠因となり、地域や地球社会の混乱を引き起こしているが…その被害を最も受けるのは弱者である

その影響は、人や地球の健康状態にも、時に不可逆的な影響を与え…

それが、地域の公害問題や、それらが複雑に絡み合った地球環境問題となり…

(先進国は、技術・政策等の力で公害問題は乗り越えつつあるが、途上国では同時におこっている)

私たちの暮らしや営みの在り方が、環境に大きな負荷を与えるようになり…



# 解決策「グリーン社会変革学術領域の創出・拡大へ」

地域レベルで起こりつつあるグリーン社会変革が、一定認識されつつあり、これらの情報を収集し、分析できるレベルに成長→グリーン社会変革の主流化に向けて、学術領域を創出するフェーズに

地域事例に着目し、そこで起こっている事象を、多角的に捉え分析するとともに、それを広げるための方策を見出すための新たな学術領域の創出を！

地域(市町村や地区レベル)



## ◆地域データ収集

- ・ 環境指標／実態データ
- ・ 暮らしや営みに関するデータ
- ・ ウェルビーイング／価値観／暗黙・在来知に関する情報

※進め方: GKCとして、カリキュラム開発や教育展開はすでに蓄積があり、まずは始動させる。データ収集や分析を進め、さらに人材バンクも活かしつつ、カリキュラム開発や教育展開も、さらに厚みを持たせていく。

## グリーンナレッジバンク

## ◆地域実践・還元

地域の固有性も大切にしつつ、汎用性ある技術も活用した...

- ・ 政策立案
- ・ 教育実践
- ・ 技術導入 など

グリーンナレッジ  
プラットフォーム  
(全国の大学や自治体と連携)

## グリーン人材バンク

## ◆データ分析

- ・ 地域の多様性を念頭においた環境モニタリング・解釈
- ・ 地域環境による暮らし・営みの固有性・普遍性分析
- ・ ウェルビーイングやプラネタリーヘルスの連関・地域性分析

## ◆グリーン人材育成カリキュラム開発及び教育展開

- ・ 地域データ収集・分析スキル
- ・ 解決策立案及び実証スキル
- ・ 教育・コミュニケーションスキル

## ◆グリーン総合知・集合知へ

- ・ 地域の暮らしや価値観(暗黙知)に根差した環境課題解決策の導出モデル
- ・ 地域固有の幸福感(ウェルビーイング)が向上する環境課題解決シナリオ

# 参考：総合地球環境学研究所グリーンナレッジセンター（GKC）

「大学共同利用機関」「学際研究の拠点」としての特長や歴史・実績を活かし、多様なステークホルダー、地域、テーマのハブとなって「つながり」をつくり、「人づくり」を通じて、人類の共通課題である環境問題の解決、持続可能な社会の構築に貢献することを目指し、2025年4月に設置されました。

